

令和3年1月13日  
地域イノベーション・エコシステム形成プログラム  
つくばイノベーション・エコシステムの構築  
(医療・先進技術シーズを用いた超スマート社会の創成事業)  
成果報告会

## “次のつくばへの宣言”

コロナ禍の経験から会議やビジネスにおいてオンラインの重要性が増してきましたが、イノベーションの観点では、オフラインでのコミュニティの必要性が失われることはありません。その意味でも“つくば”はオンライン・オフラインの両方の利点を有しており、今後も知の集積の地点としてイノベーション拠点としての重要な役割が期待されています。(TGSW 2020「第6期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性」永井岳彦内閣府科学技術イノベーション(統合戦略)参事官から)

“つくば”は、つくば国際戦略総合特区、地域イノベーション・エコシステム形成プログラム、つくばライフサイエンス推進協議会(TLSK)等の活動を通して、国際的な産学官連携拠点として絶え間なくイノベーションを生み出してきました。

地域イノベーション・エコシステム形成プログラムでは、山海嘉之事業プロデューサーのもと、事業化可能性が高く、事業化インパクトが大きいものとして①偏光OCT-次世代OCT産業の創造、②世界中の眠りに悩む人々への睡眠計測検査サービス事業、③グラフェンスーパーキャパシタによるIoH向け安全蓄電デバイスの事業化の3つの事業化推進プロジェクトと、20の基盤構築プロジェクトを実施するとともに、つくばイノベーション・エコシステムの構築を進め、つくばグローバル・イノベーション推進機構(TGI)はそのエンジンとして役割を果たしてきています。

事業化プロジェクト②世界中の眠りに悩む人々への睡眠計測検査サービス事業の成果として、誰でも簡単に在宅で高精度の自動睡眠計測ができるシステム(InSomnograf)を、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(IIIS)発のベンチ

チャーである（株）S'UIMINが開発し事業化しました。今後は、このシステムを利用した睡眠検査サービスを大規模に社会実装する上で、“つくば”のスマートシティ/スーパーシティのような構想の中核技術として実証実験をする場が必要となるとの強い提案がありました。また、基盤構築プロジェクトから始まったグラフィックススーパーキャパシタに関する取り組みは事業化推進プロジェクトへ昇格し、物質・材料研究機構発のベンチャーである（株）マテリアルイノベーションつくばが設立され資金調達の達成へと繋がっています。

本日、成果報告会の議論を踏まえ、“次のつくばへの宣言”を次のとおり取りまとめます。

- 今後は、つくばイノベーション・エコシステムのエンジンとなりマネジメントを担ってきたTGIが、進めてきましたつくばイノベーション・エコシステムのつくばの地以外への横展開を図るとともに、人材育成等に取り組みます。
- 「単に地域の問題」という目線だけではなく「地域を含めた日本/世界が困っている社会問題」を解決する世界最先端技術の実証実験や社会実装を行うに際しては、知が集積している“つくば”が有効であり、リアルな生活環境の中でのその実施が“つくば”のレゾンデートルであるということで意見が一致しました。
- “つくば”は、世界規模の問題を解決する世界最先端技術の実証実験や社会実装を行う共創の場づくりを目指し、つくばスマートシティをはじめ、Society5.0、SDGsの実現にTGIは貢献していきます。